

「語落」と「段落」の接続・連鎖

— 文法論的文章論の観点を用いて —

鄭 高 咏

要 旨

文法論の一領域としての文章論とは時枝誠記氏（1950, 1954）が提唱したもので、これを継承した永野賢氏（1959, 1972, 1986）が文法論的文章論という独自の理論を完成した。筆者は中国語に即した文法論的文章論の理論構築を試み、「語落」という新しい用語を提言したが（2001）、本稿では具体的な文章の分析を通して、説明文¹⁾における「語落」と「段落」の接続及び連鎖の関係をより明確にし、文章構造の解析方法の改善を図りたい。

キーワード：語落，段落，接続，連鎖

1 「語落」とは

呂叔湘氏は1979年に、“一般讲语法，到句子为止，句子是最大的语法单位，因此句子只有结构分类，没有功能分类。其实这也是一种老框框。”²⁾〔訳：文法というと、通常センテンス止まりで、センテンスが最大の文法単位となっている。これゆえに、センテンスには構造の分類はあっても、機能の分類はない。実はこのことも旧来の枠組みの一端なのである〕と指摘した。これは文法研究が伝統的理論のくびきを断ち切ると

きの声であったと言えよう。そして1980年から多くの中国語学術雑誌が“句群”について討論を行い、1981年7月にはハルビンで開催された「全国語法和語法教学討論会」において、“句群”は言語の表現単位として文法教育の体系に組み入れられた。これに伴い、“句群”に関する研究は急速な高まりを見せることとなったのである。1984年に教育部（日本の文部科学省に相当）が発表した「中・高校教学文法概要」では“句群”を以下のように定義している。“句群，也叫句组，或称语段，是前后衔接连贯的一组句子。一个句群有一个明晰的中心意思。”〔訳：“句群”は“句組”ともいい，“語段”と称することもある。前後相連なる一組の文を指し、一つの“句群”はある明確でまとまった意味を有する〕。こうして文法学における最大の文法単位となった“句群”とは、センテンスより大きく段落より小さな文法の表現単位であり、センテンスの数が二つもしくは二つ以上のものをいう。ところが文章全体を見渡してみると、実際の文章には「一つのセンテンスが自然段落となっており、なおかつある明確な考えを述べている」ものが少なくない。また、ある段落の中に一つもしくはいくつかの話題があり、その話題の叙述形式は複数のセンテンスからなる“句群”であることもあれば、一文のみということもある。こうしたセンテンスの文章における役割が、他のセンテンスと本質的に異なることを、次に例を挙げて説明しよう。この文章は『読報刊 看中国』（上級）p.36（潘兆明等編，1992年，北京大学出版社）より引用したが、詳細な分析については本稿の後半を参照されたい。ここでは第一・第二自然段落のみを例として挙げる。なお、文中の番号は筆者によるものである。

<原文>

1 (1) ①80年代后期90年代初，流动人口问题引起了全社会的广泛关注。

2 (2) ②据 1989 年 12 月在上海召开的“流动人口问题研讨会”透露，全国流动人口 1985 年为 5000 万，而 1987 年则上升到 7000 万，全国每 20 人中，至少有一个在流动。③以 1988 年日均流动人口统计，北京为 131 万，上海为 209 万，广州为 117 万，困惑声、惊呼声、告急声不断地通过新闻媒介传出。(3) ④美国《时代》周刊述评认为：“今天，中国发生的人口流动是有史以来最大的人口流动之一。”⑤“这种事态发展同 19 世纪欧洲产业革命时期的情况类似。”

<日本語訳>

80 年代後期から 90 年代の初めにかけて，流動人口の問題に対する社会的な関心が高まった。

1989 年 12 月，上海で開催された「流動人口問題シンポジウム」で明らかにされたところでは，全国の流動人口は 1985 年に 5000 万であったのが，1987 年には 7000 万に増加，全国の 20 人に一人が移動していることになる。1988 年の 1 日あたりの流動人口統計によると，北京 131 万，上海 209 万，広州 117 万で，マスコミは連日，戸惑いや驚きの声を報道し，警鐘を鳴らした。アメリカの週刊誌「タイム」が掲載したレポートによれば，「今日中国で起こっている人口移動は史上最大規模のものである。」「こうした事態は 19 世紀ヨーロッパに起こった産業革命当時の状況と類似している。」

この文章で注目すべきは，一文からなる第一自然段落である。これが意味段落であるかどうかはさておき，少なくとも明確な話題についての叙述であり，文章における役割は文②や③のそれとでは本質的な相違がある。そして複数のセンテンスではないため，“句群”とは呼べない。これに関し，文章学研究者である故・張寿康氏は，このようなものは“語段”と呼ぶのが妥当であり，“句群”という呼称を“語段”と改めるべき

であると主張した。けれども文法学者と文章学者では観点が異なるため、最終結論は未確定のままである。筆者は多くの文章（現時点では説明文に限られている）を分析し、「語落」という新概念³⁾を打ち出した。「文法論的文章論」という観点が筆者の研究の出発点であるから、「語落」の概念もまた「文章学」の分野に属するものであり、純粋な「文法学」の問題ではない。そこで筆者は「語落」を「文章の各小段落（自然段落ともいう）の中の、一つあるいは複数のセンテンスからなる、明確な叙述内容を有するポーズ」と定義した。「語落」は段落より小さくても、等しくてもよく、文章全体の立体的な分析により決定される。「語落」には「大語落」と「小語落」の別があり、「大語落」は「小段落」（場合によっては「大段落」）の「話題」に関する叙述の「中心」であり、「小語落」は「大語落」に関する叙述の「角度」である。これらの力関係は次の通りである。

大段落 \geq 小段落 \geq 大語落 \geq 小語落 \geq 句

「語落」の概念を確定したところで、今度は「語落」同士の関係进行分析する必要が生じてくる。この関係とは「文法論的文章論」で最重要視されている「接続論」と「連鎖論」であるが、センテンス同士の「接続」・「連鎖」については、筆者は以前の論文⁴⁾で詳述したため、ここでは取り上げない。

2 語落と段落の接続関係の類型

センテンス間の接続関係の類型とほぼ共通しているが、語落や段落はセンテンスのように切れ切れでも詳細でもなく、文章全体において絶対あるいは相対的な統合力を有することを鑑み、センテンスでは11種あ

った接続類型を8種に絞り込んだ。これに応じ、具体的な定義にも異同が生じた。

A. 展開型

前の叙述を受けて、後の叙述で展開した内容を示す。「→」で表記する。

B. 補充型

後の叙述の内容が前の叙述の内容を補足説明する。「←」で表記する。

C. 並列型

前の叙述の内容を踏まえて後の叙述の内容を加え、同様にその状況について説明する。「+」で表記する。

D. 転換型

前の叙述の内容とほとんど関係がない。「↓」で表記する。

E. 反対型

後の叙述の内容と前の内容が相反している。「⇐」で表記する。

F. 対比型

前後の内容が選択や対比、対立といった関係になっている。「↔」で表記する。

G. 積躍型

二つ以上のものが組み合わせたり、他の叙述の内容と接続関係を持つ。「↗↘」または「↘↗」で表記する。

H. 帰結型

いろいろ説明し、最期の叙述の内容で結論的なものをまとめている。「⇒」で表記する。

3 語落と段落の接続関係の実際

続いて接続関係のパターンを実際の文章に応用し、各語落及び各段落のつながりに着目していきたい。これまでに分析してきた数多くの文章例より、代表例として四つの文章を選んだが、文章例(一)(二)(三)はいずれも以前の研究論文(2002年2月)で取り上げたことがあるため、初出の文章例(四)のみ原文の後ろに日本語訳を付した³⁾。なお、文中の裸の数字は「大段落」、かっこ内の数字は「小段落」、丸付き数字はセンテンスを表している。また「| /」は大段落、「/ |」は小段落、「/」は大語落、「|」は小語落、そして「| |」は全体の結末を示す記号である。

文章例(一)

北京的胡同

《走进中国》p.63

(刘元满等编 1997年 北京大学出版社)

1 (1) ①建筑本应是一种文化，一种凝固的历史。②可惜，并不是所有的建筑都有文化，比如五十年代的突击性建筑就既不美观，又不结实，现在拆掉的正是这种建筑，而不是更老的房屋。/ |

(2) ③北京的幸运就在于它一建城的时候，其城市建筑和布局就凝聚了当时的最高文化。④封建时代说它有帝王气象、皇家风水，新中国成立后又继续是政治和文化中心，中国第一名城是当之无愧的首都北京。/ ⑤洛阳、西安等城市也曾是古都，可是朝代一换便衰退下来了。
| /

2 (3) ⑥北京著名的皇家建筑自不必说，单讲北京的胡同，就是一笔丰富的历史遗产和文化遗产。/ ⑦它正南正北，正东正西，四通八达，如同一个方方正正的棋盘。⑧任何一个普通人，哪怕是不熟悉北京

的外地人，进入北京的胡同只要方向不错就准能走得出去。| ⑨胡同体现了中国天圆地方和规规矩矩方块田的观念。/ |

(4) ⑩北京的胡同就是北京的风水，北京城的经络。⑪经络通则北京城就健康、兴旺。/ ⑫正因为北京有这样的胡同，才养育了北京人的性格，从整体来说他们和首都是相称的，正直通达，关心政治，关心国家大事，在历代政治风浪中，每当国家民族面临生死存亡的关头，北京人都站在最前面。/ |

(5) ⑬几乎每一条胡同都有自己的故事，都有自己值得骄傲的历史。| ⑭一条胡同挂着许多四合院，每个四合院又各有特点。⑮一个外地人不走北京的胡同，不进北京的四合院，就不算真正到过北京。⑯而走进了北京的胡同，又如同走进了中国的历史。| ⑰四合院代表了中国的传统文化，大都像庙一样坐北朝南，大人物可以住，普通百姓也可以住；四代、五代同堂可以住，儿女独立门户也可以住。⑱从外表看不起眼，里面却不知住着什么样的人。/ ⑲可以说北京的胡同里藏龙卧虎。/ |

(6) ⑳北京的胡同决定了北京的风格：招贤纳士，宽厚量大。| ㉑四面八方的人都可以到北京来，都会受到同样的重视，得到发展的机会。㉒它欢迎来工作的，欢迎来旅游的，欢迎来叙友谊谈生意的，如大海迎百川，它欢迎一切人。| /

3 (7) 北京胡同是北京人的福气，也是进京的外地人的福气。| |

センテンス・語落 (大・小)⁵⁾ の連接關係図 (一)



良、忘恩负义之徒，对父母都愿尽晚辈的义务。②而成问题的是，如何尽义务？／|

(2) ③很多子女的做法是化整为零以钱代情，过年过节回家热闹一下，平时就给父母一些生活费，或帮着添置些家用电器。／|

(3) ④对此父母们是领情的，但未必满意。⑤如今的父母，经济上大都不成问题，养儿防老的传统观念已经有了新的解释。|／

2 (4) ⑥就拿我们这一代来说，婚后不要孩子的越来越多，主要原因是我们没有后顾之忧。／⑦尽管如此，仍有许多人要生儿育女。⑧他们清楚子女是父母生命力的延续，有了子女，父母就不再畏惧衰老；子女是父母的梦，有了子女，父母就少了人生的遗憾；子女更是父母的慰藉，有了子女，父母就能感到旁人无法取代的温情和关心。⑨当人衰老时，任何功名利禄都不及骨肉之情能延生养老！|／

3 (5) ⑩我有一个朋友，他经济情况一般，无力给父母一流消费一流享受；他工作很忙，没时间陪父母长坐闲聊，但他的父母总能感到儿子的存在，总能体会到父子情浓、母子情深。／|

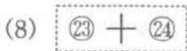
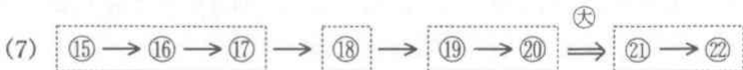
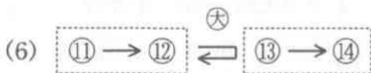
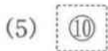
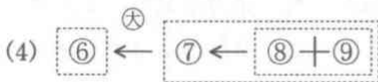
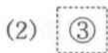
(6) ⑪以前，他也同许多人一样，建立了小家庭后，没有事由就不回家。⑫结果，就像很多家庭那样，父母天天盼子女，子女来了又不知说什么；而子女也觉得没趣，不如为父母办些“实事”。／⑬他发现，这种一次爱个够的孝敬方式，对父母对子女其实都是负担；对生活负担本来就沉重的子女来说，忠孝不能两全（忠当然是自己的小家庭）；对父母来说，子女以打肿脸充胖子的代价尽孝，等于无时无刻地提醒自己老了，成了儿女的累赘。|⑭于是，他改变了关心父母的方式。／|

(7) ⑮父母有看报的习惯，他就每天把单位的各类报纸借回家。⑯送报就是他回家的最好理由。⑰没事就多呆会儿，有事放下就走。|⑱大家都感到轻松自在。|⑲他还考虑到，送报纯粹是为父母，时间长了他们也会于心不忍，于是他就买了些花鸟。⑳他让父母相信这是他的爱好，而他自己家又没有培养这种爱好的条件。／㉑就这样，他天天到

父母家照顾花鸟，送报倒成了顺便的事。②从此，父母家就有了鸟语花香的生机，还有了源源不断的精神食粮。／|

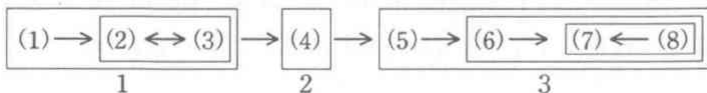
(8) ③对儿子的良苦用心，父母很满足也很领情。④他也不算太费事，每天花二十分钟足矣。||

センテンス・語落（大・小）の接続関係図（二）



三三三

小段落の接続関係図（二）



大段落の接続関係図(二)



文章例(三)

真正的女人是没有年龄的

《走进中国》p. 76

(刘元满等编 1997年 北京大学出版社)

1 (1) ①我一直不明白，为什么许多人对初次见面的人总要问上一句：“您今年多大岁数啦？”甚至对初次见面的女士也不放过。| /

2 (2) ②其实，人本来就应该有三种年龄。③一是不可改变的“实际年龄”；二是可以变化的“生理年龄”；三是完全可以自我调整的“心理年龄”。/ ④如果心理、生理年龄衰老，二三十岁的年轻人也可能未老先衰。⑤而保持心态的年轻，则可使八九十岁的老人依旧朝气蓬勃，甚至连外表也比实际年龄年轻得多。/ |

(3) ⑥我认识一位可敬的百岁老人，他乐观、坦荡，一生都在尽力帮助别人。⑦现在不但身体健康，而且思维敏捷，记忆力惊人，皮肤光滑，皱纹比许多60多岁的老人还少。| /

3 (4) ⑧我常以这些人为榜样，保持心态的年轻。/ ⑨我对自己说，永远不要认为自己“老”。| ⑩我不断去做新的事、开辟新的领域，甚至敢于去进行一些新的“冒险”。⑪失败又有什么可怕？⑫如果我追求过、探索过、奋斗过，我就无怨无悔。⑬为此，我正在筹备一个钢琴学校和一个琴行。/ |

(5) ⑭我常常觉得时间不够用，每年除了开音乐会以外，我还要录音、录像，还有许多社会工作。⑮每天除了练琴、教学生外，还要买菜、做饭、打扫房间。/ ⑯快节奏的生活使我永远感到年轻，保持着充

沛的精力，这些令我自豪。／|

(6) ⑰当然，作为一个女人，永远也别忘了健与美。／⑱我从不光顾“中老年服装”柜台，我买自己认为漂亮大方又不昂贵的服装；我注意保持身材苗条，每天自觉地从18层步行下楼，一星期还要步行上楼一次。|⑲我吃健康食品，我抽时间去做皮肤护理。⑳我也不会忘记生活中最廉价的“美容”方法：吃剩的西瓜皮切成薄片敷在脸上，蛋壳里剩下的蛋清、牛奶瓶底剩下的几滴奶，都用作上等的“面膜”。㉑一个希望“青春常驻”的女人，总会找到省时，省力，省钱的美容妙法。|／

4 (7) ㉒不知是谁曾说过：“真正的女人是没有年龄的。” ㉓我常常记着这句话。| |

センテンス・語落（大・小）の連接關係図（三）

(1) ①

(2) ② = ③ → ④ ↔ ⑤

(3) ⑥ → ⑦

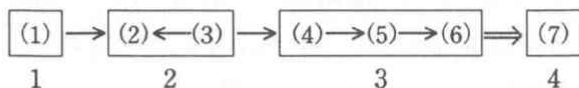
(4) ⑧ → ⑨ + ⑩ → ⑪ → ⑫ → ⑬

(5) ⑭ → ⑮ ⇒ ⑯

(6) ⑰ → ⑱ + ⑲ → ⑳ → ㉑

(7) ㉒ ← ㉓

小段落の連接關係図(三)



大段落の連接關係図(三)



文章例(四)

流动人口造成社会弊端不可忽视

《读报刊 看中国》(上级) p.36~37

(潘兆明等编 1992年 北京大学出版社)

1 (1) ①80年代后期90年代初,流动人口问题引起了全社会的广泛关注。/ |

(2) ②据1989年12月在上海召开的“流动人口问题研讨会”透露,全国流动人口1985年为5000万,而1987年则上升到7000万,全国每20人中,至少有一个在流动。③以1988年日均流动人口统计,北京为131万,上海为209万,广州为117万,困惑声、惊呼声、告急声不断地通过新闻媒介传出。/ ④美国《时代》周刊述评认为:“今天,中国发生的人口流动是有史以来最大的人口流动之一。”⑤“这种事态发展同19世纪欧洲产业革命时期的情况类似。” | /

2 (3) ⑥人们不免要思索:为什么会发生这种人口流动大潮? | ⑦是什么神奇力量在支配这种潮流? / ⑧有的学者在剖析这种人口大规模流动原因时认为,第一,封闭的格局已被打破。⑨大批剩余劳动力从田野、从调整后的企业里走了出来,他们要寻找就业的出路。⑩封闭了

30多年的人口格局一旦被打破，便带来了这种决口后潮水般的人口流动。|⑪第二，人多地少劳动力过剩。|⑫全国耕地面积从15亿多亩下降到14亿多亩，而人口从5.7亿增加到11亿，人均耕地由近3亩下降到1.33亩。|⑬剩余农村劳动力需要寻找自己的位置。|⑭第三，经济过热的吸引力。|⑮全国林立的基建工地吸引着成千上万的农村建筑队。|⑯发财的诱惑吸引着大批流动人口。|⑰第四，工农业产品价格剪刀差日益扩大。|⑱农业生产投入多产出少，影响农民种地的积极性，经济杠杆驱动着人口外流。|/

3 (4) ⑲如何看待至今未止的人口大流动？/⑳经济学界的学者们各持己见，我在这里从社会学角度谈谈其中的利弊。/㉑首先应当指出的是，这7000万离乡农民同中国社会传统意义上的“盲流”有所区别，传统意义上的“盲流”大量的是流向农村，他们的素质层次不高；而现在流动人口则大量是流向经济最发达或开放的地区，他们是农村中素质较高者。|㉒这浩浩荡荡的7000万农民离土离乡，可以说是一个历史性的标志：它是中国城市化工业化进程的反映。|㉓流动人口促进了社会流动，给流入社区带来了生机和活力。|㉔有利于城市功能的发挥和城市辐射力的扩大，促进了城乡繁荣。|㉕具体说来，第一，补充了劳动力不足，充当了城市经济大发展所必需的劳动力蓄水池。|㉖第二，促进了商品流通，方便了居民生活，解决了城市中某些职业无处招工问题。|㉗第三，为城市创造了财富，为国家增加了税收。|㉘第四，流动人口是知识、文化、信息的传播载体。|㉙他们既可以为城市带来外地文化、技术、思想、经验和信息，又可以将城市的文化、思想、技术、经验、信息带回农村，从而改变农村中落后的思想方式、生活方式和经济活动方式，促进农村进步，缩小城乡差别。|㉚在这个意义上讲，流动人口是沟通城乡社区发展的桥梁和媒介。/|

(5) ⑪正如任何事物都有两重性一样，好事背后往往都有一些麻烦事，现实生活就是这样充满矛盾。/⑫成千上万流动人口一下子拥进

城市，给城市社区带来了巨大压力和相当多的社会问题，使本来就有很多“难”的城市“难”上加“难”，给城市规划管理、市容管理、交通管理、市场管理、治安管理等增加了难度，给城市社区带来了诸多不安定因素。| ③具体说来，第一，加重了城市负担。④流动人口使城市交通、供水、供电、邮政、通信、园林绿化、环卫及粮食和副食供应大大增加。| ⑤第二，损害了计划生育政策。⑥流动人口中抢生、躲生、超生现象严重。⑦流动人口集中的珠江三角洲，外来人口生育占当地总出生人数一半。| ⑧第三，给城市社会治安带来不利因素。⑨流动人口成分复杂，有的没有正当职业，便行乞、偷窃、卖淫、甚至成为罪犯、对城市破坏性很大。⑩统计表明，流动人口犯罪率比常住人口高得多。⑪流动人口作案和流窜犯作案都呈上升趋势。/ |

(6) ⑫从社会功能角度看，流动人口的确是既有利又有弊。/ ⑬从前一段看，人们对流动人口有利的一面谈得比较多，对于弊的一面往往轻描淡写。| ⑭我认为，对于人口流动的利弊应当客观评价，对于其中的弊，不能视而不见，任其自流，应引起社会应有的注意。/ |

(7) ⑮所谓流动人口的弊，主要是指流动人口给社会带来的不稳定因素。/ ⑯从社会学意义上讲，社会稳定是社会发展的条件。⑰流动人口带来的不稳定因素，常常波及和影响经济、政治等诸多方面，往往不是某个单独部门和社区所能解决的。⑱由于整个社会是一个相互联系的大工程，因此，当这个系统的局部出现失衡以后，如果没有及时采取相应的措施校正，就会影响到全局的平衡和稳定。/ ⑲因此，流动人口的问题是涉及社会稳定的一个综合性的社会问题。| /

4 (8) ⑳为了实现社会稳定，强化对流动人口的社会控制是完全必要的。| ㉑如加强管理，限制城市人口流入量和居住时间；调整完善城市总体规划，把流动人口纳入规划中；搞好城市基础的建设和管理；利用经济手段调节流入人口；强化对流动人口的法治管理等。/ ㉒但从根本上讲，如何安排好上亿农村剩余劳动力出路，则是一个具有战略性

意义の大問題。⑤从这个意义上可以说科学地安置好成亿中国农村剩余劳动力，是事关中国社会稳定的一篇大文章。||

<日本語訳>

流動人口がもたらす社会的弊害、無視は禁物

80年代後期から90年代の初めにかけて、流動人口の問題に対する社会的な関心が高まった。

1989年12月、上海で開催された「流動人口問題シンポジウム」で明らかにされたところでは、全国の流動人口は1985年に5000万であったのが、1987年には7000万に増加、全国の20人に一人が移動していることになる。1988年の1日あたりの流動人口統計によると、北京131万、上海209万、広州117万で、マスコミは連日、戸惑いや驚きの声を報道し、警鐘を鳴らした。アメリカの週刊誌「タイム」は、「今日中国で起こっている人口移動は史上最大規模のものである。」「こうした事態は19世紀ヨーロッパに起こった産業革命当時の状況と類似している。」とレポートした。

なぜこのような激しい人口移動が起こったのか、どんな不思議な力がこの流れを左右しているのだろうか、と誰もが考えていることであろう。一部の学者は、この人口の大移動の原因を次のように分析している。第一に、閉鎖的な構造の崩壊。大量の余剰労働力が農村やリストラを行った企業を離れ、活路を見出す必要に迫られた。30年以上も閉塞状態にあった人口構造が一度崩れるや、たちまち堰を切ったように人口移動が生じたのである。第二に、人口が多く土地が狭いというアンバランスから来る労働力の過剰。全国の耕地面積は15億ムー（注：1ムー＝6.667アール）強から14億ムー強に減ったが、人口は5.7億から11億に増え、一人当たりの耕地面積は3ムー弱から1.33ムーへと減少した。農村の余剰労働力は自らの働き口を探さねばならないのである。第三に、過

熟する経済の魅力。全国に続々と現れた基本建設の工事現場はあまたある農村の建設チームを引き付け、金儲けの誘惑が大量の流動人口を魅了している。第四に、日増しに拡大する工業製品と農産物の価格差。農業の生産性の低さは農民の耕作意欲をそぎ、経済のてこが人口流出をあおっているのである。

今なおやまぬ人口の大移動にいかに対処するか。経済学会の学者たちの意見はまちまちであるが、私はここで社会学の観点からその利害について述べよう。まず第一に指摘すべきは、この7000万の離郷農民は中国社会の伝統的な意味での“盲流”と異なる、という点である。いわゆる伝統的な“盲流”の多くは農村に流れ、その質的レベルは高くなかった。これに対し今日の流動人口は、経済が最も発達しているか開放されている地域へ向かっており、農村ではちょっとしたエリートという者が大半である。7000万ものおびただしい数の農民が故郷を離れているのは、中国の都市化、工業化のプロセスの反映であり、歴史的な里程標であるといえよう。流動人口は社会変動を促進し、流入先のコミュニティに活気とにぎわいをもたらした。都市が機能を発揮し、四方へ拡大するのに一役買い、都市と農村の繁栄に寄与した。具体的には、まず労働力不足を補い、都市経済の大発展に必要な労働力の貯水池の役割を果たした。また商品流通を活性化させ、住民の生活を便利にし、都市の一部の職業における求人難の問題を解決した。そして都市の財政を潤わせ、国家の税収を増やした。さらに流動人口は知識、文化、情報の伝達媒体となった。彼らは地方の文化、技術、思想、経験、情報を都市へ持ち込むこともできれば、都市のそれらを農村へ持ち帰り、農村の立ち後れた思想や生活、経済活動のスタイルを変え、農村の進歩を促し、都市と農村の格差を縮めることもできる。この意味では、流動人口は都市と農村をつなぎ、コミュニティを発展させる架け橋であり、媒体である。

あらゆることに二面性があるように、好事には面倒がつきもので、現

実の生活もこの通り矛盾に満ちている。膨大な流動人口が一気に都市に押し寄せ、都市コミュニティでは巨大な圧力と数々の社会問題が生じた。ただでさえ多くの「問題」を抱えていた都市にさらなる「問題」が加わったのである。様々な管理——都市計画、都市概観、交通、市場、治安、環境、出産など——は難度を増し、都市コミュニティには数多くの不安要因が加わった。具体的には、まず都市の負担が増加した。流動人口により都市の交通、水道、電力、郵政、通信、公園緑化、環境衛生、穀物及び副食の供給が大幅に膨れ上がったのである。また計画出産政策も痛手を被った。流動人口の間では、規定の間隔を置かずに出産したり、隠れて出産したり、産児制限の枠を超えて出産したりする現象が深刻である。流動人口が集中する珠江デルタでは、外来人口の出生数が現地の総出生数の半分を占めている。さらに都市の社会治安に不利な要素を生み出した。流動人口の構成は複雑で、中には正業を持たない者や物乞い、かっぱらい、売春婦、犯罪を犯す者もおり、都市にダメージを与えることが多い。流動人口の犯罪率が定住者のそれよりもはるかに高いことが統計で明らかになっており、流動人口や逃亡犯の犯罪は上昇傾向にある。

社会機能の角度から見て、流動人口には確かに良し悪しがあるが、これまで流動人口のメリットについて論じられることは多かったものの、デメリットについてはなおざりにされがちであった。私の考えでは、人口移動の利害は客観的に評価すべきであり、デメリットを見て見ぬふりをしたり、成り行き任せにしたりしてはならず、社会のしかるべき注意を喚起すべきである。

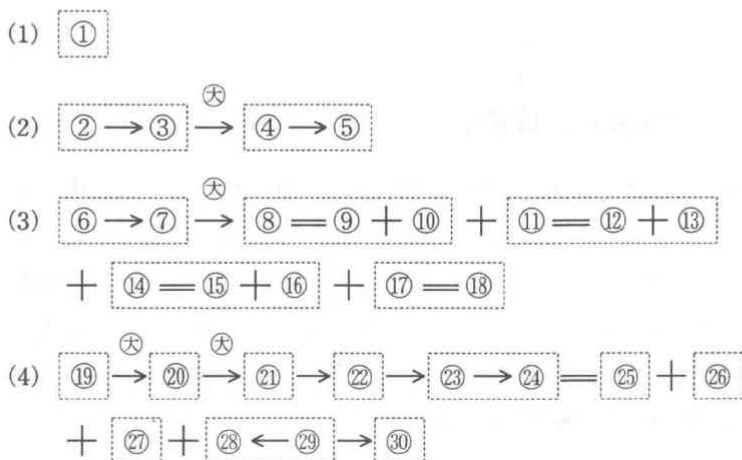
流動人口のデメリットとは、主に彼らが社会にもたらす不安要因のことをいう。社会学的な意味で、社会の安定はその発展に不可欠な条件である。流動人口に起因する不安要因は、しばしば経済や政治といった諸方面にまで波紋を広げ、一部門、一地区で解決できないこともよくあ

る。社会全体は一続きの大プロジェクトであるから、このシステムの局部にアンバランスが生じた場合、ただちに適切な処置や修正を行わないと全体的なバランスや安定に影響を及ぼしかねない。ゆえに流動人口の問題は社会の安定に関わる総合的な社会問題なのである。

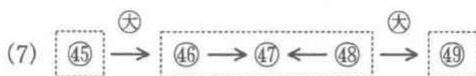
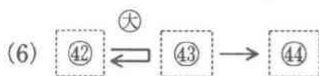
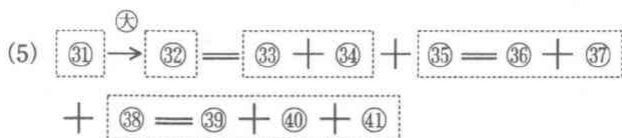
社会の安定を実現するためには、流動人口に対する社会的コントロールを強化することが必須である。例えば管理を厳しくし、都市への人口流入量と居住期間を規制する、都市の総合的な計画を策定し、流動人口を計画に組み入れる、都市基盤の建設と管理を実施する、経済的手法を用いて流入人口を調整する、流動人口を法的管理するなどである。しかし根本的には、億に達する農村の余剰労働力の受け皿作りをいかに行うかが戦略的意義を持つ大問題であり、この意味で、億に上る中国農村の余剰労働力を科学的に配置することこそ、中国社会の安定に関わる大計といえよう。

(文中の注は筆者による)

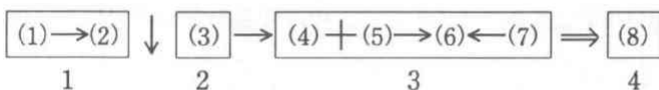
センテンス・語落(大・小)の接続関係図(四)



三三三



小段落の接続関係図 (四)



大段落の接続関係図 (四)

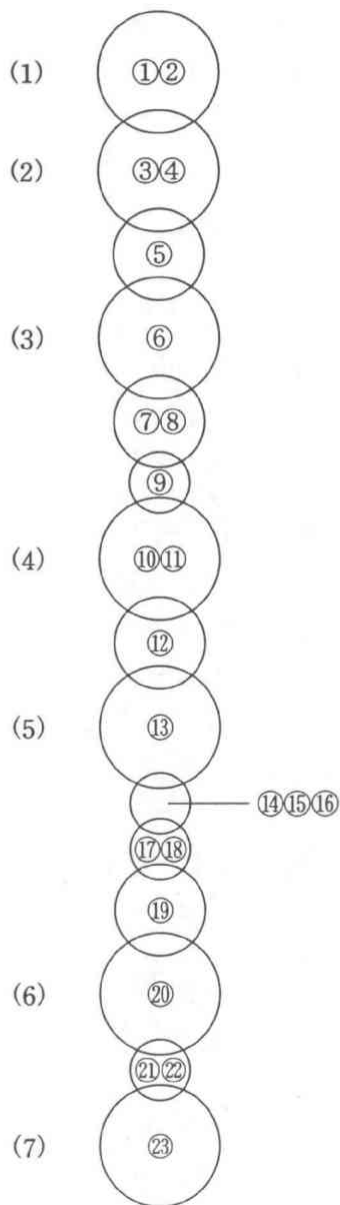


4 語落と段落の連鎖関係

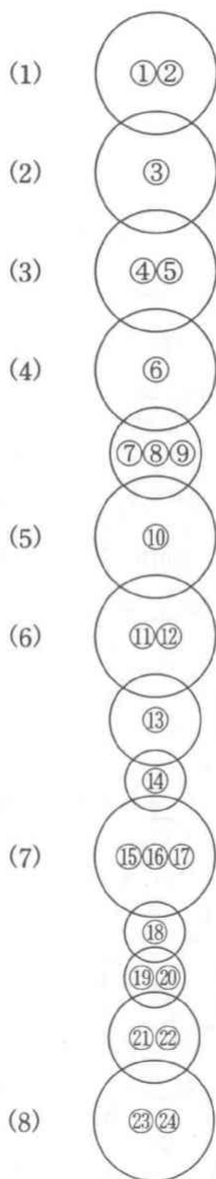
「語落」や「段落」の接続関係の考察では、平面の角度から文章構造を分析しているに過ぎず、立体感に欠け、文章全体の構造を全面的に捉えることはできない。そこで各語落や段落が文章全体でどのような役割を果たしているのか、立体的な角度から考えることが必要となる。理論的なことは以前の論文⁴⁾で詳述したので、ここでは前出の文章例の語落と段落の連鎖関係を図解するにとどめる。

「語落」と「段落」の接続・連鎖

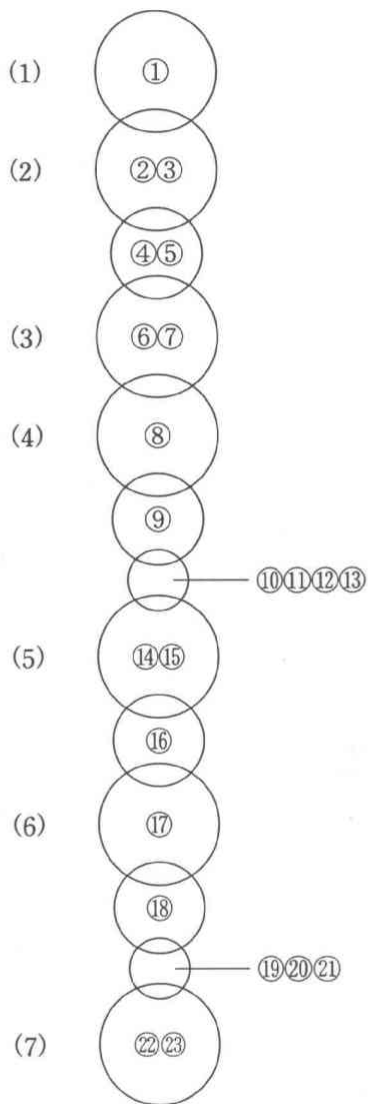
文章例（一）の語落の連鎖図



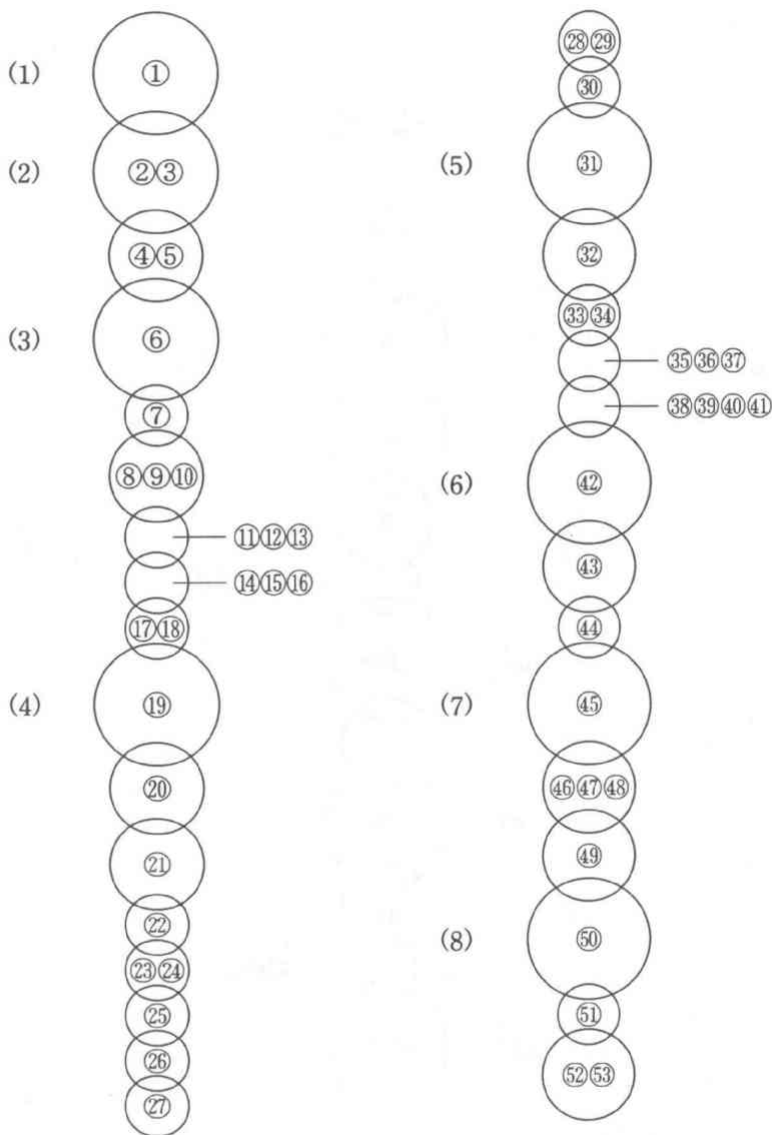
文章例（二）の語落の連鎖図



文章例（三）の語落の連鎖図

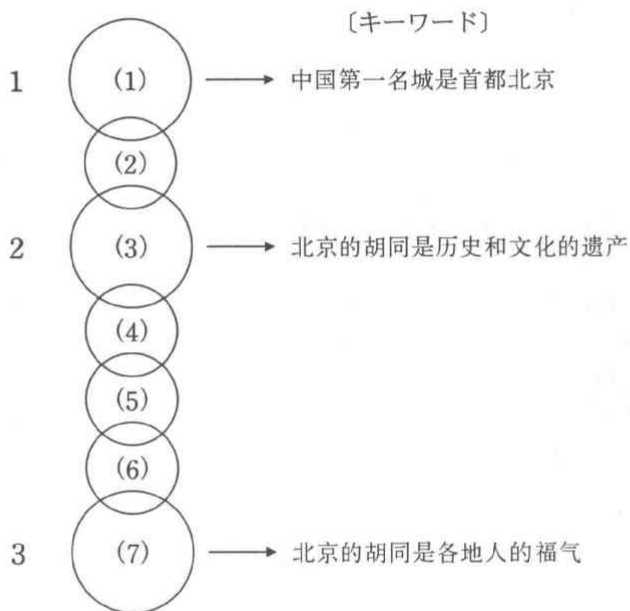


文章例（四）の語落の連鎖図

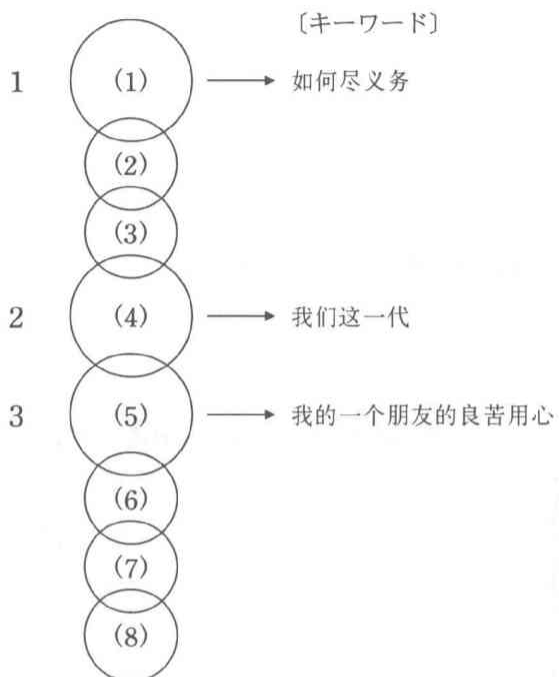


小段落と小段落の間も大語落ではあるが、同時に小段落の終わりかつ始まりでもあるため、連鎖図を作るときには輪の大きさによって大語落と区別すべきかと思われる。

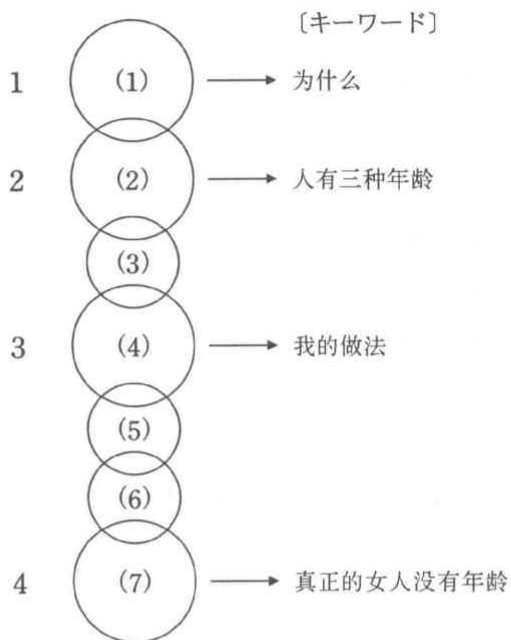
文章例（一）の段落の連鎖図



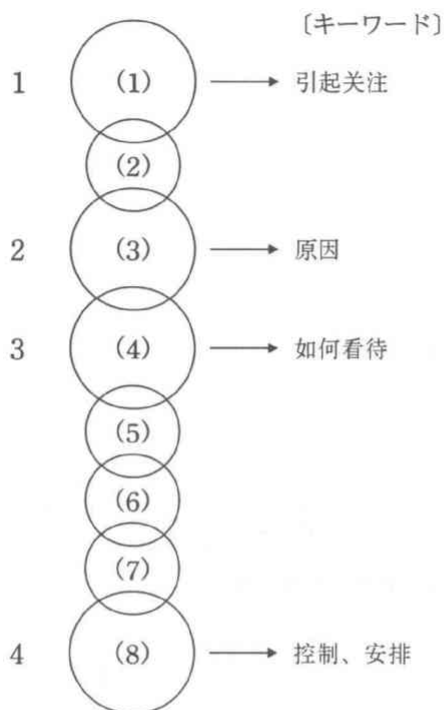
文章例（二）の段落の連鎖図



文章例（三）の段落の連鎖図

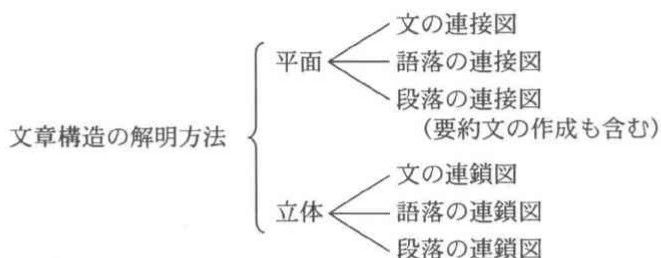


文章例（四）の段落の連鎖図

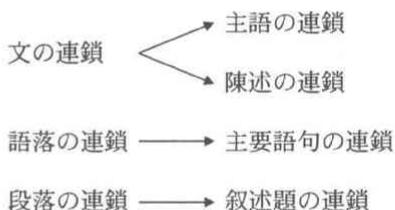


5 まとめ

以前の論文⁴⁾で文章構造の解明方法について総括したが、それを補完すべく、ここでは「語落」の分析という新たな観点を加えた。



さらに下図のような役割分担も考えられるであろう。



註

- 1) ここで述べている「説明文」という概念は、中国語で言う“説明文”とは異なり、永野賢氏の説に従っている。主に中国語での“記叙文”，“議論文”，“説明文”，“実用文”を指している。
- 2) 呂叔湘（1979）『漢語語法分析問題』p.53 商務印書館
- 3) 鄭高咏（2002）『説明文における「段落」と「語落』』愛知大学紀要『言

語と文化』第6号 p.57～p.77

- 4) 鄭高咏(2000)「中国語における文法論的文章論——説明文における文と段落の接続・連鎖——」愛知大学紀要『言語と文化』第4号 p.49～p.67
- 5) ⊕は大語落の意味であり, は語落を表す。
- 6) 小段落は大語落でもある。これについては注3)の論文を参照されたい。
 は段落を表す。